

説明

1. 性格とは

- (1) 実際はそうではないかもしれないが、他人にはそう見えているもの。
- (2) 人間がその人生の中で演じ続ける役割。
- (3) その人らしさを言い表す特徴

2. ユングのタイプ論 ユング: スイスの心理学者Σ精神分析学者

(1) 人間の関心の2つの向き

- ① 外向性: その人の関心が自分の外側の世界に向けられること。
事件が起こった時⇒原因や背景を考える。行動してから考える。
- ② 内向性: その人の関心が自分の内側の世界に向けられること。
事件が起こった時⇒自分だったらどうかと考える。じっくりと考えてから行動する。

(2) 人間の心理の4つの働き

- ① 思考: ものごとを合理的に考えたり判断したりする機能。
絵画を見た場合⇒どんな意味があるのか、作者はどんな人かを調べる。
- ② 感情: 好き嫌いなどの基準で判断する機能。
絵画を見た場合⇒好きになって、同じ画家の他の絵も見ようとする。
- ③ 感覚: 五感で美醜や快不快を判断する機能。
絵画を見た場合⇒色や形や技法などに興味を持つ。
- ④ 直感: ひらめきで判断する機能。
絵画を見た場合⇒幼い頃の楽しかった1シーンを思い出す。

- ・外向的思考タイプ: 客観的な事実を重要視して、それに基づいて筋道をたてて考えるタイプの人。自分の考えよりも客観的事実の方が大事で、感情表現が苦手。男性に多い。女性ではごくわずか。
- ・内向的思考タイプ: 自分自身の心の中に浮かび上がる考えを筋道立てて追うのが得意な人。新しい事実の発見よりも新しい考え方の発明の方が大事。感情面が未発達のことが多い。男性に多い。
- ・外向的感情タイプ: どこでどういう感情を使ったらよいかよく知っており、自分の感情をよくコントロールし、周囲の状況をよく理解して、他人と良い関係を保つことが得意な人。社交上手。しかし、哲学など理屈を考えるのは全く苦手。女性に多い。男性にも見かける
- ・内向的感情タイプ: 心の中に好き嫌いの判断を持っていて、自分の心の中に描いた心像に忠実であるが、それと関係ない人たちを全く無視してしまうので、自己中心的で、時に傲慢な印象を与える。感情面にすばらしい判断力を持っているが、その表現力が不十分で、周囲に誤解されやすいといえる。思考面が未発達のことがおおい。女性に多い。
- ・外向的感覚タイプ: 現実の人や物事に対して、具体的に身体的感覚で感じ取ることが得意な人。色や形によいセンスを持っている。しかし、直感的総合力には欠ける。男性にも女性にもいる。
- ・内向的感覚タイプ: 外からの刺激をじっくりと自分の感覚に吸収し、取り込むが、それを、すぐには表現しない、または、その人自身の主観的印象が主体となってしまうので、誤解を受けやすい。直観による将来的見通しが全く苦手で、概して方向音痴。
- ・外向的直観タイプ: 直観は、直接無意識に根ざしている心機能で、周囲の人やものや将来の見通しなどにカンが働く。流行に敏感。感覚が未発達なので、周囲のものごとをじっくり捕らえることが出来ない。どちらかというとな女性に多くみられる。
- ・内向的直観タイプ: カンがよく将来の見通しなどもよく見えるが、そのカンは外の社会には向けられず、もっぱら心の内に向かっている。弱点は感覚で、まわりの状況や事実をよく見ようとしなない。